点訳広報、声の広報も製作しています

広報いせはら
Public Relations Paper
ISEHARA

ありがとう10周年

令和5(2023)年 No.1275
9月1日

主な記事

4 5 あなたの勇気が命を救う
8 第56回伊勢原観光道灌まつり 道灌公役と政子役が決定

関東大震災の記憶

～震災発生から100年～

大正12(1923)年9月1日に発生した関東大震災から、今年で100年目を迎えます。100年の節目を機に、当時の状況を振り返ります◇2面では災害に対する備えについて紹介しています

担危機管理課☎94-4865

伊勢原の被災状況

関東一円に壊滅的な被害を与えた関東大震災は、本市にも甚大な被害をもたらしました。現在の伊勢原市域を構成する、当時の2町5村で、128人の尊い命が失われ、全壊・半壊合わせて、約2500戸(全壊率約48%)の家屋被害を受けました。人的・家屋被害ともに大田村が最も多く、大山町、高部屋村では全壊率は低いものの、土砂災害による被害が発生しました。

大山地区の被災状況

多くの命を救った避難行動

地震により大山の山腹には多くの地割れが発生しました。地震後に大雨が降ったことで、2週間後、山津波(土石流)が起こりましたが、大山の駐在警察官がいち早く危険を察知し、地域で声を掛け合い、住民は協力して避難しました。

この山津波では、旅館や多数の家屋が土砂によって埋没しましたが、死者は1人にとどまりました。地域ぐるみで避難行動をとることで、多くの住民の命が救われました。

火山災害にもご注意を

地殻変動の活発化に伴い、火山災害も懸念されています。国内には111の活火山があり、このうち、富士山が噴火した場合は、伊勢原市にも10㎝程度の降灰被害が発生することが想定されます。

富士山の噴火による火山灰被害予想図◇出典 内閣府「富士山火山防災マップ」

火山灰は直接的な命の危険性は低いものの、わずかな降灰で呼吸器や目への健康被害に加え、交通網への影響、停電・断水、電波障害、農業被害などを引き起こす危険があります。

降灰への備えは、地震や風水害の防災対策と共通する点が多いですが、次のものを準備しておくと安心です。

主な備蓄品

◆不織布マスクや防じんマスク
◆防じん・防護めがね
◆掃除用具(ほうきやちりとり、掃除機など)
◆食品用ラップフィルム(電化製品への侵入を防ぐ)
◆ガムテープやタオル(窓や空気口を塞ぐ)

発行／伊勢原市　編集／広報戦略課　〒259-1188　伊勢原市田中348番地　☎0463-94-4711(代) FAX 0463-93-2689